

「旅する学校 未来ハイスクール」

2021年度実施報告書



本事業のサマリ

概要

事業者	一財) 地域・教育魅力化プラットフォーム
実証フィールド	全日制・通信制高校 (全国)
時期	2021年11月～2022年2月
背景	個別最適な「多様な学びの機会」や、一人ひとりの目的を実現するための「越境した学び」がこれから必要と考えられる。
目的	越境可能な多様で開かれた教育システムの実現に向け「学校・地域」「全日制・通信制」の枠を超えた個別最適で協働的な学びの実証
内容	<p>【①学校・地域の枠を越えて協働的に学べる探究プログラムを実証】</p> <p>【②全日制の生徒が一部科目を通信制で履修できる個別最適な科目履修を実証】</p>

成果と展望

成果

【①学校・地域の枠を越えて協働的に学べる探究プログラムを実証】

- 参加した生徒の自己変容が見られた。
 - 参加を通して多様性から学ぶ意識の変化も見られる。
- アンケート結果：「自分とは異なる価値観や意見を尊重することができる」
事前：37.5%→事後：87.5%に増加

※実証参加生徒のアンケート結果にて「あてはまる」と回答した数の変化
※母数（参加者数）8人のため、参考数値

- 「心理的安全性の高い場」「内（自分）の理解」「外（他者）との対話」があることで、自己理解が深まりながら、違いへの関心を持ち、自己変容につながったと推察される。

【②全日制の生徒が一部科目を通信制で履修できる個別最適な科目履修を実証】

- 多様な学びを実現するため、生徒の目的にあわせて全日制・通信制の枠を超えて履修し単位認定できるモデルの実績。
- 明蓬館高校（通信制）の「課題研究A」（半期1単位）を、全日制高校で「総合的な探究の時間」などで単位認定予定。4校の生徒で3月中に認定確定見込み。

展望

学校間連携の更なる促進により、多様で個別最適な学びの実現を目指したい。

- ①自校以外での履修も認める「生徒中心の学びの設計」の浸透
- ②目的にあわせて他校と連携する学びのケース作り
例「個人の目的の実践までできる方法」「履修選択肢の多様化」
- ③学校間連携方法の手順化・効率化
例「学校間での連携方法の明確化」

背景：新しい時代に向けて必要な資質・能力とは？

未来
社会

VUCA（非連続・可変・変動、不確実、複雑、曖昧）
デジタル・グローバル化（ボーダレス・クロスボーダーetc.）

学校
教育

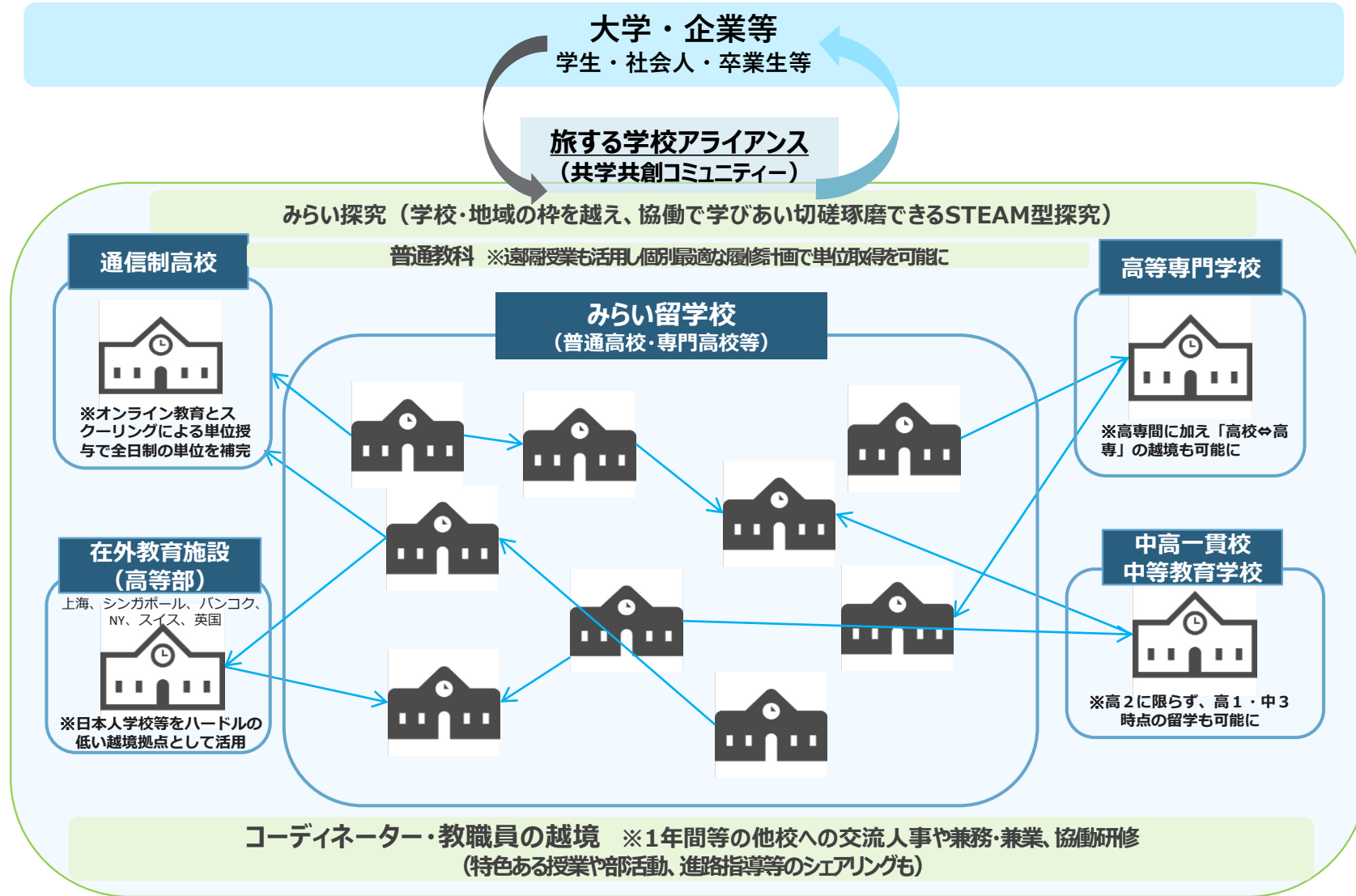
個別最適に対応できる**多様な学びの機会**
越境可能な開かれた学校教育システムが必要

本実証でのねらい

生徒
実態

興味関心・価値観・志向志望・資質能力・成長機会等
可変・変動・多様化

目指す姿：「旅する学校」みらいハイスクール構想



目的

越境可能な多様で開かれた教育システムの実現に向け
「学校・地域」「全日制・通信制」の枠を超えた個別最適で協働的な学びの実証

実証 項目 1

学校・地域の枠を超えた多様な生徒
と協働的に学べる探究カリキュラムを
実証

どこの地域・学校にいても、多様な人/考え方/地域との協働
的な学びができる教育の実証

実証 項目 2

全日制の生徒が一部科目を通信制
で履修できる個別最適な科目履修
を実証

生徒の目的にあわせて一部科目を通信制で履修・単位認定し、
多様な学びを実現できる教育システムの実証

実施概要

全日制の生徒が、通信制の「探究授業」を履修。
履修結果が全日制で単位として認定されることで、目的にあわせた越境を実現する。

実証
項目
1

全国の多様な仲間と

地域・学校を超えた協働的な学びができる探究

北海道～沖縄まで観光に興味がある
8人の異年齢の生徒が
オンラインで学び合い

普段とは違う仲間や環境で
自分と他者の違いに気づきながら、
「自己変容」につなげる。



明蓬館高校（通信制）での
科目履修
半期1単位の科目「課題研究A」

実証
項目
2

全日制高校が単位認定

「学校間連携」を活用し
生徒の目的にあわせた
通信制での履修を
全日制高校が単位認定

在籍する高校（全日制）で単位認定

「総合的な探究の時間」などの単位として認定
（※学校によって認定は異なる）

【実施結果】生徒の意識変化

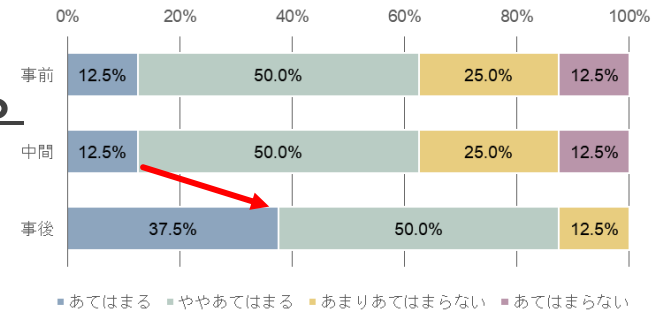
※実証参加生徒のアンケート結果にて「あてはまる」と回答した数の変化
※母数（参加者数）8人のため、参考数値

学校外の多様な他者との学びによって、
「異なる価値観」を受け入れながら「自己理解」「自己変容」が見られた。

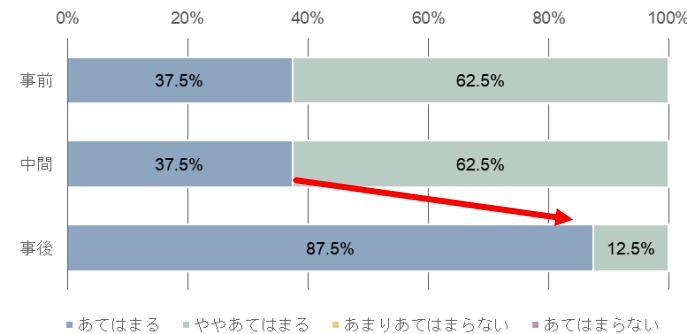
- 「自分を客観的に理解することができると思う」 12.5%→37.5%
- 「自分とは異なる価値観や意見を尊重することができる」 37.5%→87.5%
- 「誰かの助けがあれば、自分を変えられる」 0.0%→37.5%

- 事前/中間/事後アンケート調査の結果から、他者との対話による変化、他者との関係性に関する変化が生じたことが分かる
- 特に、「自分とは異なる価値観や意見を尊重することができる」という質問に対し、「あてはまる」と回答した割合が大幅に増加しており、他者の対話の中で違いを尊重するようになったと言える

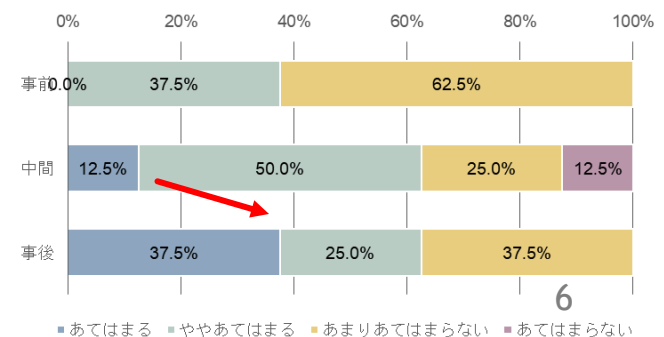
自分を客観的に理解することができると思う



自分とは異なる価値観や意見を尊重することができる



誰かの助けがあれば、自分を変えられる



「自分の理解が深まり」→「他人との違いからの気づき・学び」→「行動や考えが変容」というプロセスのケース



受講前

- ・これまでは「相手が言ってほしいと思うこと」を言うことが多く自分を出すことが少ないと感じていた。
- ・「観光」について学校で取り組んでいるが、自分ができることが少ないと感じる。

合同探究①② 自分の内面を知る

- **自分のことを深く知り、自分が大事にしたいことを認識した。**
- ・自分が大事にしたい**ニーズを知った**
- ・ペアワークで自分のことを**他人に話す中で、自分のこと深く知ることができた。**

合同探究③～⑥ 外の視野を広げる

- **他者の観点、他地域の事例から思考を広げられた**
- ・**他人と自分で注目する観点が違うことが面白い。**
- ・「身近なところに小さな観光地がある」という話を聞いて、「**新しいものがないと人を呼べない**」という考えから「**今あるものを使って発信していく**」に変化し、それなら**自分でもできることがあると考えられるようになった。**

受講後

- **自分を深く知ることができ、進路の考え方が変わった。**
- ・人と関わる仕事がしたいとわかり今考えている職業や学部以外も選択肢に。偏差値にもこだわらなくなった。
- **参加してからクラスの友達との仲がさらによくなった。**
- ・自分の気持ちを話すことが増えて仲良くなった。
- **「自分の変化」と「他人の変化」を同時に感じられておもしろかった。**
- ・受講しながら自分の変化に気づきつつ「**みんな変わったな**」と感じる。

実証項目

1

学校・地域の枠を越えた多様な生徒と協働的に学べる
探究カリキュラムを実証

どこの地域・学校にいても、多様な人/考え方/地域との協働的な学びができる教育の実証

【実証項目1】授業概要：「地域を越えた協働での探究授業（単位認定）」の実証

全国の生徒が地域を超えて学び・探究するプログラム

対象

全日制に通う高校1・2年生8名

探究テーマ

「観光・ツーリズム」というテーマを設定し、自己変容を促す

授業方法

①90分×6回のオンライン授業
②スクーリングでの対面授業
(→オンラインに変更)

実施期間

2021/12/7～2022/2/14

履修の
単位認定

明蓬館高校での「課題研究」（半期1単位）として実施・履修。「学校間連携」にて各全日制高校の単位として認定。

※学校により認定結果は異なる。

特徴

1

全国の多様な
仲間と成長しあえる！

2

1つの地域だけではできない
「地域を超えた発見！」

3

多様な地域・考え方を知り
自分の考えが再構築！



【実証項目1】設計の狙い

設計思想

- 他の生徒との関係の質の向上を通じた自己変容を促すことを意図して全体を設計した
- 自身の内側を深く見ることに加え、外側を見る視点を養うために「観光・ツーリズム」をテーマにした合同探究プログラムを開発した

自身の内側を深く知る

- 自分自身が大事にしている価値観や実現したい願い・ニーズに気付くプログラムを設計
- その価値観・願い・ニーズをさらに深めていくために他者との対話を設計



外側を見る視点を養う

- 自分の住んでいる地域を改めて見つめ直し、他の生徒が住んでいる地域との相対化を図るためのプログラムを設計

関係の質を高める

- 他者との対話や交流の前提として、安心安全に意見を言い合える関係性づくりや場づくりを実施

【実証項目1】プログラムの流れ

- 最初の2回を関係性構築及び自分の内面に向き合う時間に設計
- テーマである“観光”については後半から焦点化し、まずは自らの中にある興味関心を感じられるよう意図

		授業内容	ねらい
合同探究①	12月7日(火) 16:30-18:30	「関係の質」構築 学習する組織に向かう土壌づくり	自分の“内側”を知り、 相手の“内側”に興味を持つ。
合同探究②	12月17日(金) 16:30-18:00		
合同探究③	12月20日(月) 16:30-18:00	足を使ってフィールドを探索して写真撮影を行い、 自分の地域への興味を発見する	自分の“発見”に素直になる 相手の“発見”に興味を持つ
合同探究④	1月10日(月) 16:30-18:00	足を使って集めた情報をまとめ、 自分のフィールドへの好奇心を可視化する	自分の“発見”を深ぼる 相手の“発見”に触発される
合同探究⑤	1月24日(月) 16:30-18:00	インタビューを通じて実家や地域に埋もれた観光の一次情報 を集め、共有する	私たちの“発見”の入口に立つ 他者の観点を学び合う
スクーリング @福岡県博多市 →オンラインに変更	2月5日(土) 6日(日) 10:30~16:30	第二のフィールドである、 福岡県川崎町の魅力を発見する ほかの地域を知った上で、 自分の観光への問いを考える	ほかの地域を知り、 自分の考えを再構築する 過去を知ること未来を考える
合同探究⑥	2月14日(月) 16:30-18:00	自分の観光への問いを発表する	自分だけでは行きつかなかった 問いや課題意識への出会い

【実証項目1】実施体制

履修先通信制高校



- ・福岡県川崎町を拠点に地域に密着したグリーンツーリズムの実践
- ・スクーリングで第二のフィールドとして川崎町をテーマに学ぶ。

合同探究講師

渋谷聡子氏

合同会社ファミリーコンパス代表
 清泉女子大学 非常勤講師
 教育委員会や学校現場にて、組織変革
 ファシリテーター・対話の講師としての実績多数



市川力氏

一般社団法人みつかる+わかる代表理事
 慶応義塾大学SFC研究所上席所員
 島根県立島前高等学校運営指導委員会委員



合同探究①② 自身の内側を 深く知る

- ・自分自身が大事にしている価値観や実現したい
願ひ・ニーズに気付くプログラムを設計
- ・その価値観・願ひ・ニーズをさらに深めていくために
他者との対話を設計

合同探究③～⑥ 外側を見る視点を 養う

- ・自分の住んでいる地域を改めて見つめ直し、
他の生徒が住んでいる地域との相対化を図る
ためのプログラムを設計

検証・設計・相談先

検証・アンケート設計

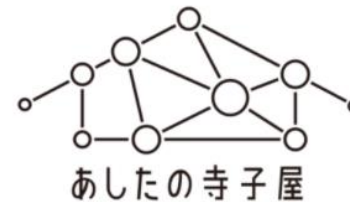


相談先

島根大学
 中村怜詞准教授



講座・検証設計・推進



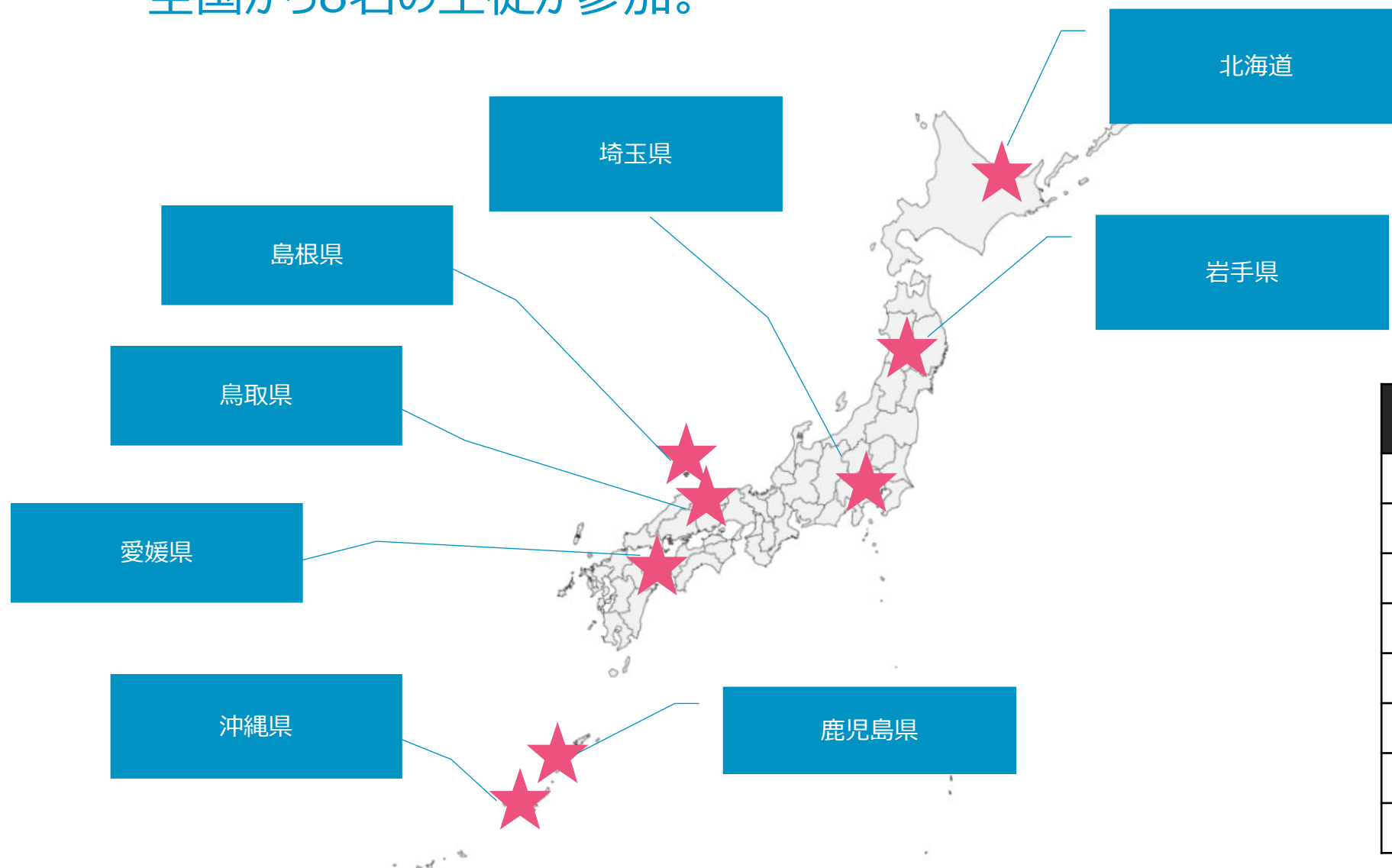
主催・事務局



地域・教育魅力化
 プラットフォーム
 Platform for Sustainable Education and Community

【実証項目1】参加生徒（学校）一覧

全国から8名の生徒が参加。



在籍地	学年
北海道	2
岩手	2
埼玉	1
鳥取	1
島根	2
愛媛	2
鹿児島	2
沖縄	2

実証項目
2

全日制の生徒が一部科目を通信制で履修できる
個別最適な科目履修を実証

生徒の目的にあわせて一部科目を通信制で履修・単位認定し、多様な学びを実現できる教育システムの実証

課題認識

越境的な学び・多様な学びを実現するために、他校での履修を単位認定することは制度上で可能（※）である一方、その制度の活用は限定的。

※参考

■学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）（抄）

第97条 校長は、教育上有益と認めるときは、生徒が当該校長の定めるところにより他の高等学校又は中等教育学校の後期課程において一部の科目の単位を修得したときは、当該修得した単位数を当該生徒の在学する高等学校が定めた全課程の修了を認めるに必要な単位数のうちに加えることができる。

【参考サイト：学校外における学修の単位認定について】

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kaikaku/1247229.htm?fbclid=IwAR0qLdHJPXxHx3jyvwrKdC4Sqz4cNRTO1QBt2t1UI8SS9P-5ycmgbwvRiqk

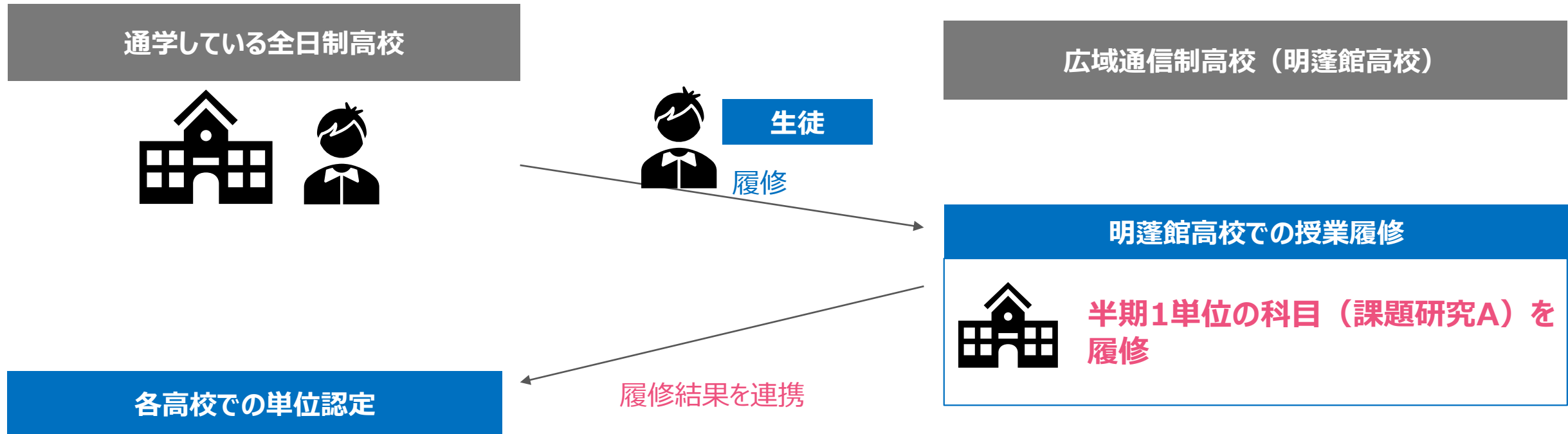
目的

- ・生徒の目的にあわせて、全日制/通信制を問わない「学校間連携」による単位認定のモデルづくり
- ・制度を活用して単位認定することが有益と認められるプログラムの実現

【実証項目2】単位認定の仕組み

全日制に在籍する生徒が、通信制高校で「探究授業」を履修。
「学校間連携」を活用して全日制の単位として認定されることで多様な学びを実現。

※「学校間連携」（学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）を活用し認定。



明蓬館高校の履修結果を受けて、
各学校で単位を認定判断。

※「総合的な探究の時間」での認定が多い。

成果まとめ

生徒の目的にあわせて、多様な仲間と共に通信制での探究授業を履修し、結果を単位認定できるという目的は達成。今後より地域や学校を越えた学びを普及していくための課題も。

大項目	目指した状態	結果	今後の展望・課題
個別最適な学び	<p>実証項目1 【内容面】 多様な学びの実現</p> <p>地域を越えた多様な仲間と学ぶ中で自己変容できる。</p>	<p>●参加した生徒の自己変容が見られた。 ●参加を通して多様性から学ぶ意識の変化も見られる。 ※「自分とは異なる価値観や意見を尊重することができる」 事前：37.5%→事後：87.5%に増加</p> <p>・「心理的安全性の高い場」「内（自分）の理解」「外（他者）との対話」があることで、自己理解が深まりながら、違いへの関心を持ち、自己変容につながったと推察される。</p>	<p>学校間連携の利活用の更なる促進により、多様で個別最適な学びの実現を目指したい。</p> <p>①自校以外での履修も認める「生徒中心の学びの設計」の浸透</p> <p>②目的にあわせて他校と連携する学びのケース作り —個人の目的の実践までできる方法—履修選択肢の多様化</p> <p>③学校間連携方法の手順化・効率化—学校間での連携方法の明確化</p>
	<p>実証項目2 【制度面】 越境しやすいの実現</p> <p>通信制で科目履修し、全日制で単位認定することでの多様な学びの実績を作る。</p>	<p>生徒の目的にあわせて、通信制で授業を履修し、全日制で単位認定するモデルの実現</p> <p>・4人（校）が全日制的単位（総合的な探究の時間）として2021年度3月に認定予定。 ・通信制高校との学校間連携を活用した、国内留学のケースも2022年度実施予定。</p>	

実証で見えてきた課題と方向性案（越境的な学びの観点）

【前提】

自校以外での学びの必要性

- 小規模校等で一部の科目が実施できないケースなどもあり、「受験科目」「選択科目」などで生徒の選択肢を狭めることがある。
- 自校以外での学習の際、教育課程が合わないなどで希望する学びが実現できないことがある。

項目

課題・背景

解決の方向性案

他校と協働する 想定少なさ

現段階では「**自校内**で学校教育目標を達成する」という意識が高く、「**自校の生徒が他校で学ぶ**」想定が少ないと推測される。

生徒の目的の実現のため、**通学校以外での学校での履修も含めて「生徒中心の履修設計」**を実現することで、個別最適な学びの実現につながると考える。

学校間連携の 方法の例示

実施する際、学校間連携は学校長の裁量で明確なルールがなく「**単位認定のやり方で迷う**」「**先生・教育委員会の負担となり**」ため実施しにくいケースもある。

学校間連携の例や手順を示し、先生・生徒・保護者が迷いなく対応できる手引きが必要。

通信制履修の 多様化・効率化

全日制の生徒が、通信制にて履修する場合、生徒への「**経済的負担・スクーリングの移動・交通費負担**」がある。生徒の目的や地域にあわせて履修できる状態が理想。

生徒の目的や地域にあわせて、**スクーリングの実施の仕方や学ぶ学校・科目を複数の選択肢からあったものを選択できる状態にできると**、より他校での学びが促進されと考えられる。また、スクーリングを兼務発令などで他校で実施する方法なども検討できるとより学びの選択肢が広がると考えられる。

【実証項目1】自己変容に至ったプロセス仮説

1 参加動機	<ul style="list-style-type: none">■ 観光・ツーリズムというテーマへの関心や自己の成長に対する関心等を持って参加■ そのような参加動機を事前アンケート調査や事前面談を通して言語化
2 自己開示への安心	<ul style="list-style-type: none">■ 安心安全な場が形成され、自分の願いやニーズを打ち明けることに対する安心感を得る■ 普段とは異なる関係性（生徒間、生徒と講師間）であったことも影響
3 違いへの気付き・ 自己理解の促進	<ul style="list-style-type: none">■ 思ったことや考えたことを率直に話した後、講師や他の生徒から違いに対するフィードバックを受けて他者との違いに気付くことで、自己に対する理解が進む
4 違いに対する受容 (違いの面白さ受容)	<ul style="list-style-type: none">■ 違いを肯定的に捉え、「他人と違っていい」「多様な意見があることが面白い」ことを受け入れ、むしろ違い（他者との視点の違いや地域の違い）に面白さを感じる
5 違いへの 関心の高まり	<ul style="list-style-type: none">■ 「もっと違いを知りたい」「もっと他の人の考えを聞きたい」という関心が高まり、他者の意見を聴くことにも意識が向く
6 自己変容の 実現・実感	<ul style="list-style-type: none">■ 他者と多様な意見を交換することで、自身の考え方や行動に変化が生じる■ プロセスの中で幾度も自身の考えたことや感じたことを言語化したことも影響■ 「もっと知りたい」「もっと学びたい」という今後の探究に対する意識が向上



【実証項目1】今後の探究プログラム開発に関する考察

本実証における合同探究によって自己変容を実現することができた要因には、プログラム設計上の6つの要素が影響していたと推察。



観光という テーマ

- 生徒にとって取り組みやすいテーマであった
- 地域間の差異が浮き彫りになりやすいテーマであった



少人数での 対話機会

- 1対1またはグループで対話する機会を多く設けた
- その中で常に自分の意見が尊重される経験をした



生徒の 多様性

- 北海道から沖縄まで、全国各地から集まった
- これまでの経験や考え方も様々であった



余白や雑の 設計

- 雑談する時間を設ける等、関係性を解きほぐす機会を設けた
- Slackを活用して授業の合間にもやり取りできるようにした



講師の 関わり方

- 本音を話していいという空気づくりに優れていた
- 講師が常に対等な目線で関わっていた



振り返りの 機会

- アンケートや面談を通して経験を言語化する機会を設けた（事前・中間・事後）

授業検証結果

- ① 授業の内容
- ② 効果結果

【実証項目1】プログラムの流れ

- 最初の2回を関係性構築及び自分の内面に向き合う時間に設計
- テーマである“観光”については後半から焦点化し、まずは自らの中にある興味関心を感じられるよう意図

		授業内容	ねらい
合同探究①	12月7日(火) 16:30-18:30	「関係の質」構築 学習する組織に向かう土壌づくり	自分の“内側”を知り、 相手の“内側”に興味を持つ。
合同探究②	12月17日(金) 16:30-18:00		
合同探究③	12月20日(月) 16:30-18:00	足を使ってフィールドを探索して写真撮影を行い、 自分の地域への興味を発見する	自分の“発見”に素直になる 相手の“発見”に興味を持つ
合同探究④	1月10日(月) 16:30-18:00	足を使って集めた情報をまとめ、 自分のフィールドへの好奇心を可視化する	自分の“発見”を深ぼる 相手の“発見”に触発される
合同探究⑤	1月24日(月) 16:30-18:00	インタビューを通じて実家や地域に埋もれた観光の一次情報 を集め、共有する	私たちの“発見”の入口に立つ 他者の観点を学び合う
スクーリング @福岡県博多市 →オンラインに変更	2月5日(土) 6日(日) 10:30~16:30	第二のフィールドである、 福岡県川崎町の魅力を発見する ほかの地域を知った上で、 自分の観光への問いを考える	ほかの地域を知り、 自分の考えを再構築する 過去を知ること未来を考える
合同探究⑥	2月14日(月) 16:30-18:00	自分の観光への問いを発表する	自分だけでは行きつかなかった 問いや課題意識への出会い

授業運営：授業以外でのコミュニケーションの醸成

【目的】

授業と授業の間が1～2週間あいてしまうため、その間のコミュニケーションを活性化するため参加生徒、事務局スタッフ、外部講師の間でslackを活用

【効果】

slackに授業に対する感想や事前課題に関する雑談などが投稿されることで「オンライン授業中にはできなかった発言」や「授業での学びが日常生活でどのように紐づいたか」などの意見交換がされた。

The screenshot shows a Slack channel named "#雑談" (General Chat) with 13 members. A user named "@channel" has posted a message dated 2021年12月18日. The message is a checklist for a check-in activity, asking members to share their feelings about the "望む世界" (World I want) and "ありたい自分" (Person I want to be). The list includes: ①自分「望む世界」, ②ありたい自分(大切にしたいニーズ), and ③第1回・第2回の「学びや気づき、感想」. Below the message, a user has replied with a list of 5 points: ①一人ひとりが尊重される世界(とりえず今はこれに落ち着きました), ②尊重・尊敬、気楽さ、身を守る場所, ③自分が「どう見られたいか」ではなく、自分が「どうありたいか」, ④「仮面」はいつでも外す事ができる, ⑤自分で自分を信じてあげる!! The user also mentions they enjoyed the activity and will be happy to discuss it further.

The screenshot shows a Slack channel named "#雑談" (General Chat) with 13 members. A user has posted a message dated 1月13日(木). The message is about a "サタグルマ" (Sataguruma) tool, which is a traditional Japanese tool used for drying and curing. The user has attached two photos of the tool. Below the message, a user named "丸谷正明 (事務局)" has replied, saying they had never seen the tool before and that it was interesting to see. The user also mentions that they had used it before and that it was helpful for drying and curing.

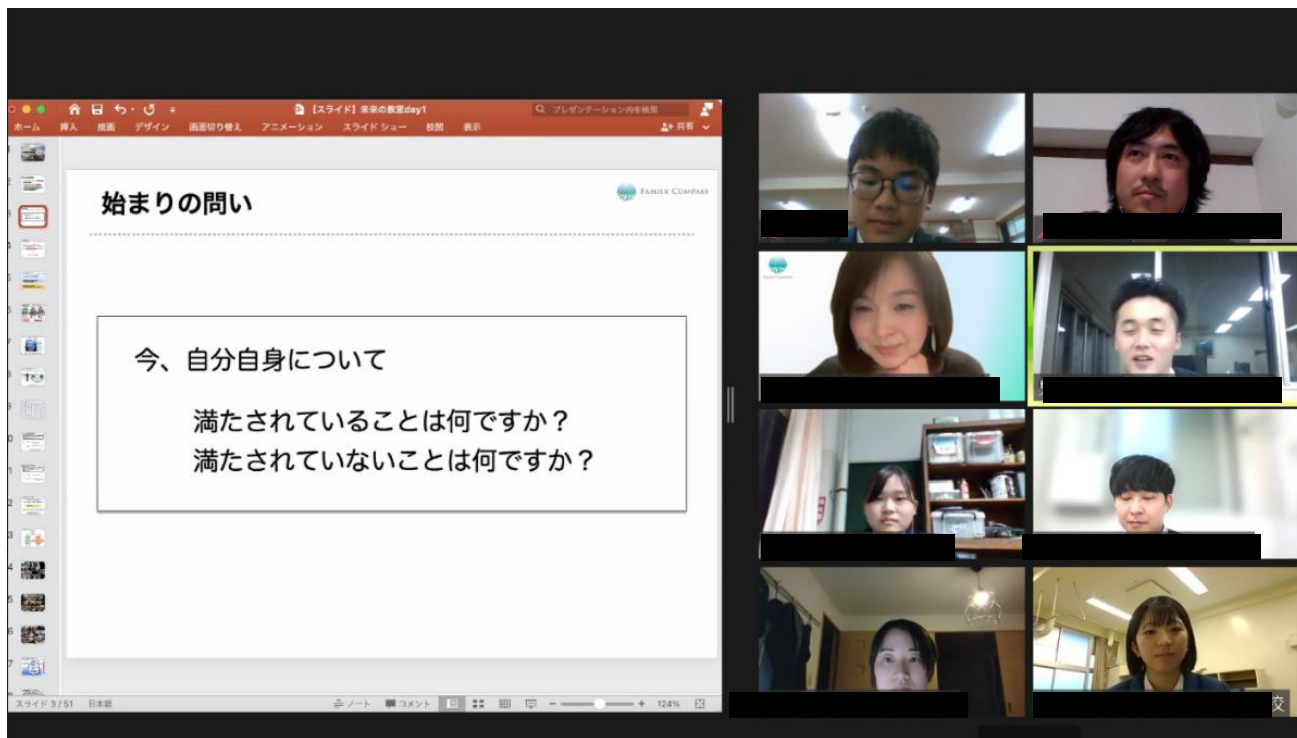
「自分が大事にしている価値観を知る・対話できる関係性を作る」

■自分の感情や大事にしている価値観を考慮することで、自分の内面への理解を行う

NVC (Non Violence Communication) の理論に触れ、ニーズリストをもとに、「自分自身の内側にはどのようなニーズがあるのか」を知る。

■対話を体感し、開示できる関係性の入り口に立つ

自分が満たされていない（満たされている）ニーズを、対話を通じて他者の視点も得ることで深掘りを行う。



大切にしたい「願い（ニーズ）」リスト

愛	お互いが満たされる	空気	自己実現	身体の安全性	存在感・生命	嘆く	学び
あそび	思いやり	元気回復	自己受容	信念	大事にする・される	認知・承認	守る・守られる
あたたかさ	価値の承認	健康	自己表現	親密さ	楽しみ	能力	水
安全の保障	感情的な安全性	言行一致・誠実さ	自主性	信頼・自己信頼	食べ物	場・スペース	見てもらえる
安定	聴いてもらえる	効果的であること	知ってもらえること	成長	多様性	配慮	身を守る場所
イキイキさ	帰属	貢献	自分で責任をとること	性的な表現	探求	発見	明確さ
意識を向ける	気づき	心の平安	自由	生命・生活の維持	秩序	パワー・満たす力	目的
一貫性	気にかける、ケアする	コミュニティ	祝福する	選択	挑戦	人との交流	優しさ
慈しむ	希望	支え	受容	相互依存	調和	平等	ユーモア
意味	休息	参加	正直さ	相互承認	直感	含む・含まれる	よろこび
癒し	共感	自覚的であること	自立	創造性	つながり	触れること	理解
動き	協力	刺激	心身の健やかさ	尊重・尊敬	統合	平和	理解される
美しさ	気楽さ	自己価値の承認	親切にする・される	尊厳	流れ	(自分に)本物である	分かち合う

Copyright © 2021 familycompass LLC.

合同探究①②を通じて顕在化した生徒のこの学びの場に対するニーズ

このみらいハイスクールで実現したい一人ひとりのニーズ

自由、自立、希望

多様性、ユーモア、信念

楽しみ 支え 癒し

多様性、尊敬尊重、思いやり

イキイキさ、刺激、
理解されてる

尊重・尊敬

尊敬・尊重、気楽さ

大事にされる・する
(自分に)本物である

身を守る場所

自由 尊重・尊敬

認知・承認

1

■ 信念や刺激・自立・希望といったことを得ることができる学びの場であると同時に、自分自身と他者が尊重され、承認されること、理解されること、本物であることが両立することを思い描いていることが読み取れる。

■ それらを実現するために、自由・気楽さ・思いやり・多様性が担保された場となることへの意欲が受け取れる。

合同探究①②の成果 生徒の声・反応（授業中の発言やslackでの投稿などから）

【成果1】 心理的安全性が担保された対話の場、学習の場の土壌が耕された

【成果2】 「自分の内面」に関する気づきや発見を他者にシェアし、日常生活へ気づきを持ち帰ることができるという手応えを感じ始めた

オンラインで、かつまだ2回目の授業であったが、“安心して話してもいい場所”という認識がメンバー内では醸成されつつあることが感想や発言から見受けられた。また、授業最後のチェックアウトでの発言量やslackでの投稿も増加した。

発言や投稿からの一部抜粋

■ 顕在ニーズ、潜在ニーズ、封印されたニーズの種類を知れたことが大きい人にラベルを貼られても中身は自分で決めればいい。何が正解じゃなくて自分がどうありたいか、が大切。2年生後半の今、学校生活ですごく何かもやもやしていて、そんな心の中にスッと降りてきた言葉たちだったので、このもやもやを解消する手がかりなのか？！と思って大切にしていきたい。

■ 2回とも安心して心が潤うような良い時間でした。とても楽しかった。“仮面”はいつでも外す事ができること。自分で自分を信じてあげること。この2つがとても大切に残っている。

■ 安心して皆さんと話すことが出来て楽しかった。今回のこの話し合いで、自分でも気づかなかった自分を発見することができ、また、自分について改めて深く考えることが出来た。これからも自分のニーズを大切にしていこうと思う。

合同探究①②で見た「オンライン授業独特の課題」

＜課題 1＞ 心理的安全が担保された受講環境の必要性

ほとんどの生徒が学校内（もしくは自治体所有の施設）で受講しており、学校関係者や外部の人が出入りをする可能性のある環境下であったことが1回目の授業の後に判明した。（そのため、1回目の場の空気の硬さや発言量の少なさが見受けられた）。現地のサポートをしてくれている教員の方々にお願いをし、オンライン授業中のプライバシーを守ることができる環境での受講にご協力いただいた。

＜課題 2＞ オンライン授業に対する慣れなさ（授業中の発言やslackの投稿などへの遠慮）

ZOOMなどを利用したオンライン授業に不慣れであったり、slackを扱うことが初めての生徒も多く、授業中の発言のタイミングを推し測ったりする様子が見受けられた。（いつミュートを外して発言していいのかわからない、といった声がアンケートにもあった）なるべく、少人数での対話の時間（ブレイクアウトルーム機能を利用）やslackに外部講師や事務局のメンバーを雑談を投稿することでコミュニケーションの活性化を図った。

【事前課題】

地域内を30分ほど歩き回り、自分が「気になったものの写真」の写真をとにかく撮る。
その中から1枚を選び、「何が気になる観点だったのか」を授業内でシェアする。

【目的】

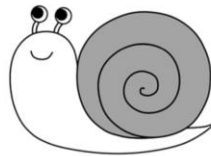
- ・「他者にうける」「場で評価される」ではなく、「自分の興味や感度を知る」（＝自分の“発見”に素直になる）
- ・「地域の違い」「一人ひとりの興味や感性」の違いを知る。（＝相手の“発見”に興味を持つ）

少し止まれば観察の感度が上がる

歩く

Feel°C Walk

Feel°C = 度



速度

ゆっくり
じっくり



角度

あちこち
多角的に



温度

だんだん
熱くなる

無駄・無用・無関係に感じるモノ・コト

「雑」を集める

なんとなく気になる
とりあえず写真に撮る
あてもなく追いかける
ひたすら記録する

↑ 講師の市川氏からレクチャーしていただいたFeel °C Walkの手法と意義について（資料抜粋）

合同探究③ 生徒たちの発見の様子

足を使ってフィールドを探索して写真撮影を行い、
自分の地域への興味を発見する

自分の“発見”に素直になる
相手の“発見”に興味を持つ



発表の様子と8人の気になったものの写真

発言や投稿からの一部抜粋

■ 植物園の写真です。みかんとかがそこらへんにあるので、とって食べたり、野生的なことをしたりしています。（下にある甕は）この敷地内に昔の家を再現した建物があって、その家の中に昔使われていた道具があるので、持ってきたんだと思います。ガジュマルを撮ろうと思ったのは、入口から差し込んでくる光がすごく綺麗で。植物園の訪問者が、入口からとても綺麗だから、奥には何があるんだろう、ワクワクするって言うていたから（この写真を選んだ）

■ この写真は、近所で散歩している時に撮った写真で。いつも散歩するコースなんですけど、ここの近くにはキャンプ場があって賑やかなんですけど、ここはとても静かで。この静かになれるところが好きで（選びました）。ここに飛石があるんですけど、このもっと奥にももう一個飛石があって、その飛石の先をいくと、橋の下をくぐって、そこをそのまま行くと、違う地区までいけるのがとても楽しくて。それでお気に入りの場所です。

【事前課題】地域の中を歩き、“知図”の制作（＝気になったものを絵や文字で表したもの）を行う。

【目的】

■ 自分の中の“雑”の集合にある繋がり（＝感じたこと、課題意識、興味関心）を知る

“知図”のシェアを通じて、地域を越えたところでの、自分と他者の気づきや発見、興味関心の繋がりに気づく。

■ 相手の発見と自分の発見の共通項や差異を体感する

（例：「建物（人工物）への興味」「自然への関心」「看板への関心」「美しさの気づき」「歴史の面白さ」「形への興味」「因果関係への興味」）

シェアの内容

Handwritten notes on the left page of a shared content sheet. The notes are organized into columns and include various observations and reflections, such as '存ぜかべのふちの方がよくコアが生えるのか' and '1月や2月の花ミツバチも3匹集まる'. There are also some diagrams and drawings integrated into the text.

Handwritten notes on the right page of a shared content sheet. The notes are organized into columns and include various observations and reflections, such as '学校へ行く道の橋' and '奈良の用水路はいいわー'. There are also some diagrams and drawings integrated into the text.

合同探究⑤概要

実家や地域に埋もれた観光の一次情報を集め、共有する。

私たちの“発見”の入口に立つ
他者の観点を学び合う

【事前課題】家族など身近な異なる世代の人へ「観光とは何か？」についてインタビューを行う。

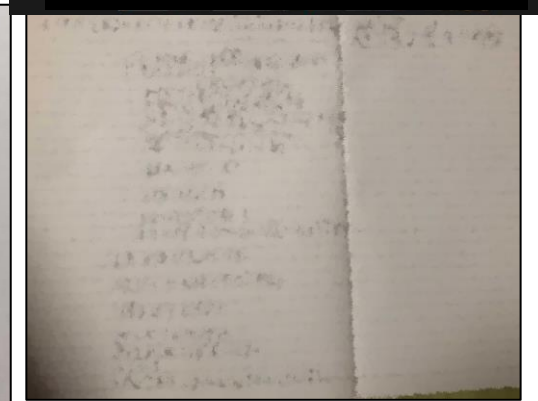
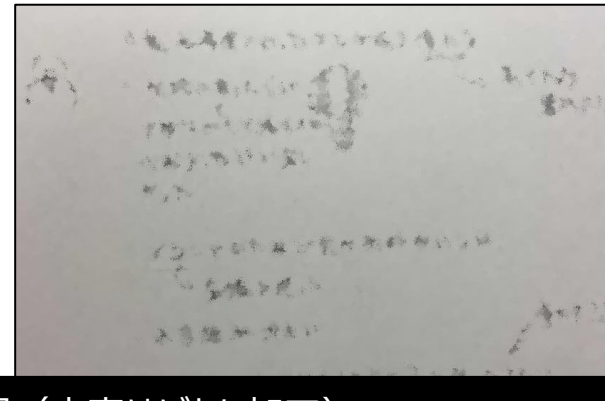
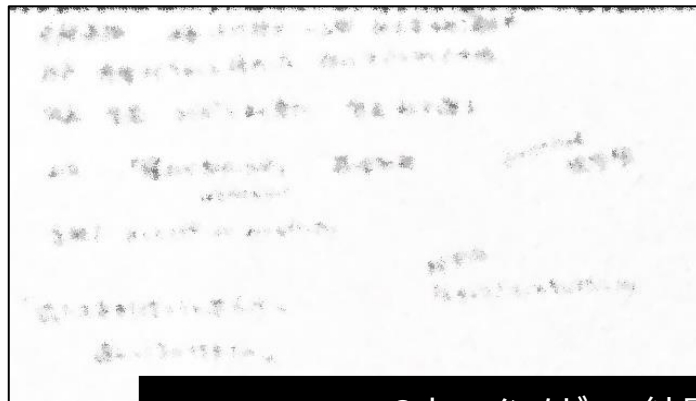
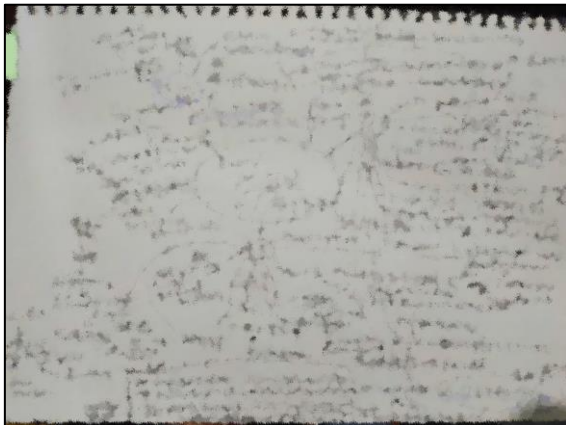
【目的】

■ 自分の身近な人・場所に埋もれた情報を丁寧に収集する

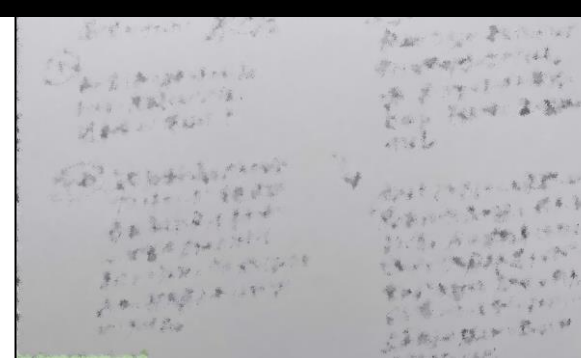
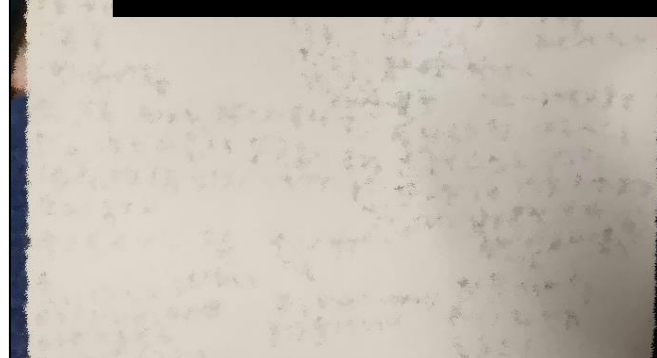
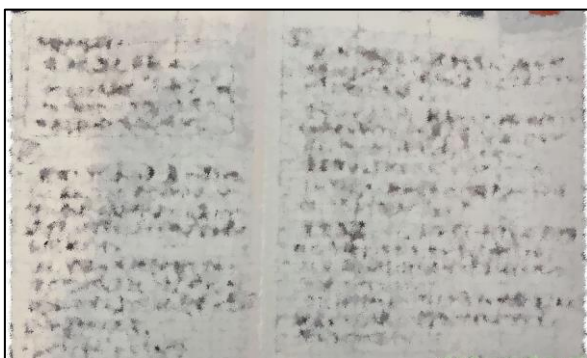
必要な一次情報を念頭におきながら、その情報を得るために“問い”を自分なりにアレンジする。

■ インタビューーたちの背景を理解し、世代ごとの共通点に気づく

周辺情報や背景も交えながら、他者にインタビュー結果をシェアし、世代ごとの共通項に気づく。

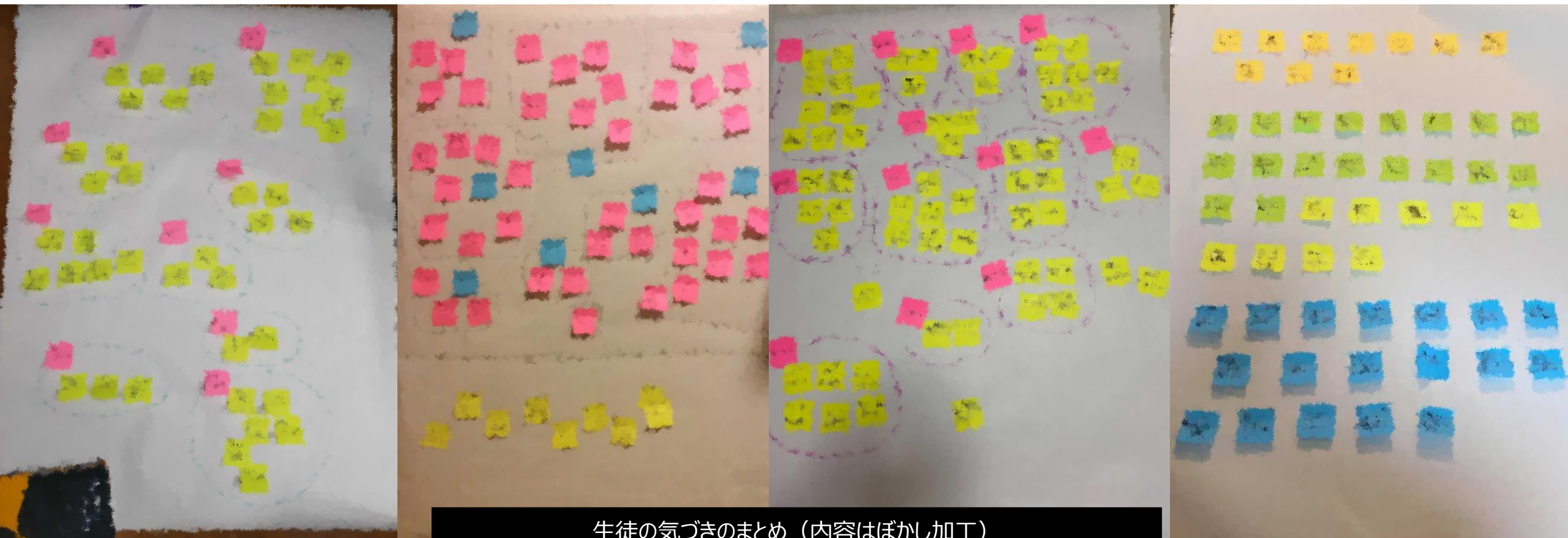


8人のインタビュー結果（内容はぼかし加工）



合同探究③～⑤の成果 生徒たちから生まれた仮説や問い その1

合同探究③～⑤のまとめとして、次回のスクーリングまでに、一人ひとりがこの日出てきたインタビューの要素を洗い出し、再度自分なりにグルーピング→再構築→気づきの言語化（仮説・問い）に取り組んだ。



生徒の気づきのまとめ（内容はぼかし加工）

【成果】

- ・一人ひとりが各回の合同探究において意欲的に他者のシェアに耳を傾けていたことが読み取れる。
- ・一次情報を収集すること、それらを再整理することに慣れてきた様子が見受けられる。

合同探究③～⑤の課題 スクーリングに向けての工夫

<課題 1> 生徒のみでの対話の活性化の促進

合同探求④⑤においては、ブレイクアウトルームなども活用しながら、2～3人での感想のシェアや対話の場づくりを行った。生徒2人だとスムーズに行われる対話や気づきのシェアも、3人以上だと進行役を決めるまでに時間がかかったり、事務局や外部講師の様子を伺うなどぎこちなさが見受けられた。

→スクーリングでは、生徒2人（1対1）の対話を全員と行うプログラムを取り入れることにした。

<課題 2> 与えられた課題に対して適切であるか、合っているか（正解であるか）を手放すことへの慣れ

学校生活で探究に取り組んだことのある生徒の中には、「自分の発言が場や講師の意図に沿っているか」「自分が取り組んだ調査のアウトプットが期待から逸脱していないか」をこまめに確認する発言や様子が見受けられた。

→この場における探究に一つの正解はなく、自分の中から生まれる気づきや発言が大切であるということ。調査のアウトプットに正解や不正解、期待外れなどはなく、そのプロセスが重要であるということ、をこまめに声かけを行うようにした。

スクーリング1日目概要

初めて触れるフィールドである、
福岡県川崎町の魅力を発見する

ほかの地域を知り、
自分の考えを再構築する
過去を知ること未来を考える

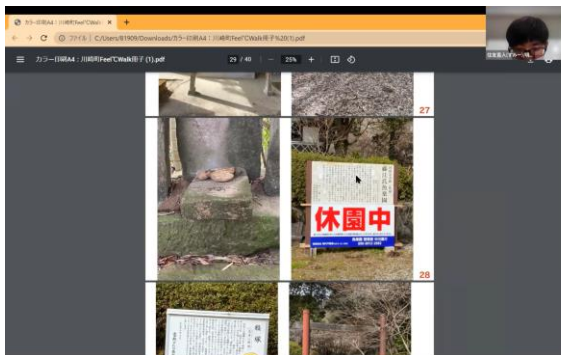
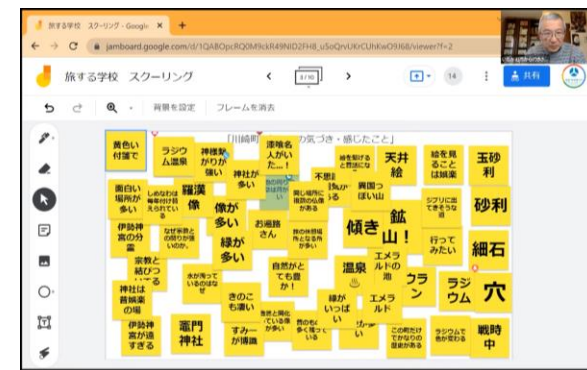
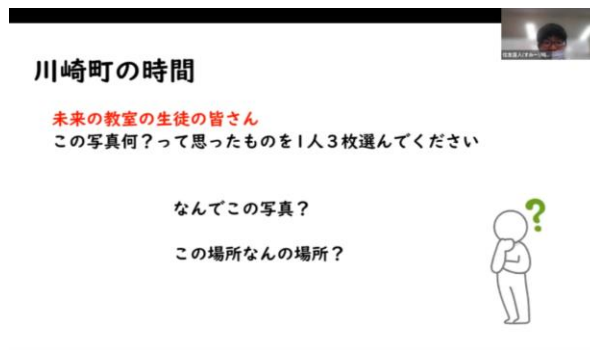
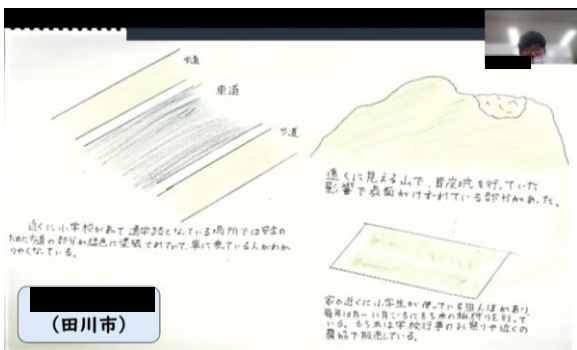
【事前課題】前回の“観光”に関するインタビューを再度自分の視点から要素分解、再構成を行い、その過程で生まれた気づきを言葉にする。

■ 無関係に思える情報と自分の今の“問い”や“気づき”を結びつけて深める

・初めて触れるフィールドである川崎町の一次情報（現地の学校に通学する生徒によるFeel°CWalkや現地で活躍する有識者）を整理する。

■ 農林業など異なる分野から見た土地の情報から生まれた個人の疑問や気づきが、場での気づきになる

・初めて触れる土地の過去から現在（課題など）を知り、自分の中から生まれる問いを場に出す。



↑ 明蓬館川崎町本校に通う生徒2名によるFeel°CWalkのシェア

スクーリングを通じての成果 生徒たちの変容（自分との紐付け）

【成果 1】自らの中に生まれた感想や問い（講師に対する質問）をためらうことなく、積極的に発言する場面が増加した

【成果 2】講演した講師への質問の中に、今自らが抱える悩みや自分の地域への課題意識が投影されるようになった

いずれも、大人の期待や正解に沿うような発言ではなく、自らにとって重要と思う観点とそう思う背景を場を開示し、自らの学びや変容のきっかけとなる“問い”が生まれるようになっていった

発言からの一部抜粋

- ・自分たちは（1年間の）留学生で、知らない土地に行ったという点では講演者の方と近い部分があると思うんですけど。新しいコミュニティに参加していく上で、馴染むため、仲良くなる上で片桐さんが心がけたことがあれば教えて欲しいです。
- ・（講演者の方は）写真家や農家など、やりたいことがやれている、見つかっていると思うんですけど。私も今進路とかを考えなければいけない時期に来ていて、やりたいこととかどうやって見つけていけばいいのかな、って聞きたいです。
- ・話を聞いていて、農業から人が離れていくというのは、自分が今いる地域も結構農業している人が多くて聞いていたが、地方によって離れ方が違うんだなということを知った。あと、農法もそういう農法があるんだなということがわかって、驚きがあった。
- ・今日すごく気になったのが、森林と海の関係のテーマ。小学生の時に、雨が降って山を通過して川に流れるから、海を綺麗にしたかったら、まずは山からと教えてもらった。私が住んでいる遠野市では、高齢者の一人暮らしも増えて、山を切り崩して木を売って生活している人が増えて来ていて、山が裸になってしまっている。遠野市の魅力は自然なんですけど、動物の住む場所がなくなって町に降りてくるのが起きてしまっている。高校生にできることは少ないと思うが、そういう対策でできることは何かありますか。
- ・私が住んでいる場所の近くに、ホテルがよく見れる場所があって、小学生のころは友達とよく見に行っていたが、中学生や高校生の頃になると、ホテルがいなくなっちゃった。また見られるように再生することはできますか。
- ・今、いろんな話を聞くと、どこの地域でも観光客が自然や環境の悪影響になっているという話を聞く。町の人や地域の一般人の人が環境のためにできること（綺麗にする、維持するためにできること）は何かあるか教えて欲しい。

【事前課題】

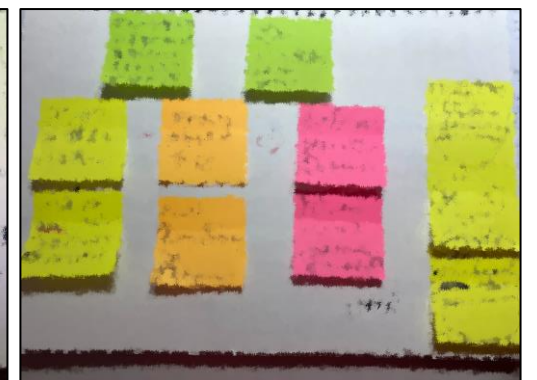
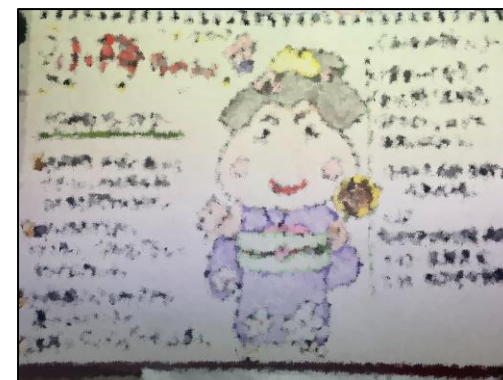
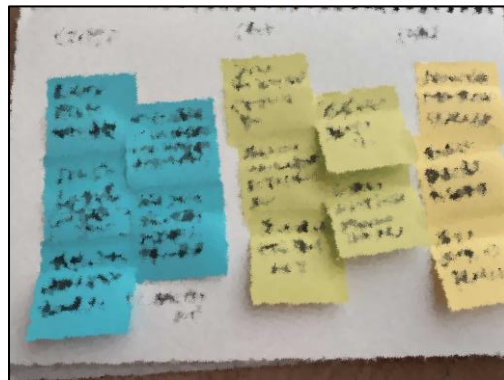
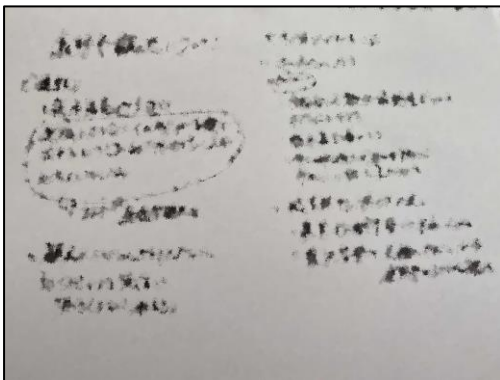
- ① 川崎町でいろいろなことを知って、川崎町自体 or そこから派生して、特に気になった or さらに深く知りたくなったことを調べることを深くでも、いくつか調べたことでもどちらでも良い)
- ② 「観光」ということについて今、あらためて考えること、現時点での自分なりの「アイデア・仮説・思い」を 1文 or 数文でまとめる
- ③ ここまでやってきて、なんかひらめいた・思いついたことを自由に書く

■ 与えられた一次情報だけでなく、自分の興味関心を起点に二次情報（本・ネット・資料）を収集する

・自分自身の興味関心をもとに、新しいフィールド（川崎町）での興味関心についてより調べてみる。

■ 新しい情報収集や探究手法をもとに立てた自らの問い（仮説）が、他者との対話を通じて更に発展する

・従来の情報の集め方や探究方法だけではいきつかなかった自分の興味関心を起点に、場の相互作用によって深まった問いや課題意識をシェアする。



合同探究⑥の成果 自分の問い（仮説）が対話を通じて変容していくプロセス

生徒の発表の後に分かれた少人数グループでの対話においては、以下のような発言が見受けられた。

<成果>

- ①他者の課題意識を自分の今までの課題意識や探究と紐付け、自分ごと（自分の地域との共通の課題）として共感したり、その考えや発言の背景（地域の実情など）に対して、深い興味関心を寄せる
- ②課題に対する解決策について、自分なりの意見のシェアや自分自身の知見を気軽に発言する

発言や投稿からの一部抜粋

・（観光客や観光物の分散化をもっと考えたいという発言をした生徒に対し）僕も去年観光の分散化について調べてた。自分の場合は、お金の落とし所が一箇所に固まってしまうという点を課題にしていたが、（島の中でも）海に汚れや破壊が集中してしまうという点はなるほどな、と思った。思ったのが、島1つでやると小さいじゃん。他の島と連携して分散化する、というのはどうかな。だから、もっと詳しく（発言した生徒の考えを）聞きたいと思った。どういう経緯で分散化に至ったのか、とか。

・2人ともそうだったけど、環境保全に注目しているよね。環境保全は共通のテーマなのかな、って。観光客、どこか多いかって、田舎も多いけど、都会でも秋葉原とかでも人が多くて汚い。だから環境保全って定義が色々あるよね。その土地のありのままを残すのか、環境保全を意識して観光客をうまくコントロールするようにベンチやゴミ箱を設置するのか、とか。もちろん、今は後者の話が多いんだけど。だから、2人にとって“環境保全”ってどう考えてるのか、聞かせてほしい。

・（離島に住んでいるという共通項がある生徒同士の会話の中で）「観光客が増えると環境破壊が進むという関係はあるけれど、観光客を受け入れ続けて環境破壊が進むのか、観光客を抑えて環境破壊を維持し続ける方がいいのか、どちらの方が大事だと思う？」

「（島の中には）観光客が来すぎて問題な場所もあるけれど、うちの集落とかは人が来なさすぎて、来ないと荒れる（草が生えたままだったり）というのもある、ある程度がきた方がいいのかなと思うこともある。」（質問した生徒は「そうなんだ！」という驚きの反応）

授業検証結果

- ① 授業の内容
- ② 効果結果

検証設計

自己変容を「自己を捉える概念の変化」「社会を捉える概念の変化」と定義して検証を実施。
また、自己変容そのものだけでなく、それに至る基礎力も把握できるように検証全体を設計。

検証の観点

詳細

自己変容
そのものを把握

自己を捉える
概念の変化

「参加前は自分のことを〇〇だと思っていたけど、参加してみて●●を大事にしていることに気付いた」等、自分自身を捉えている考え方や価値観等の変化を把握

社会を捉える
概念の変化

「参加前は観光とは〇〇だと思っていたけど、参加してみて●●だと考えを改めた」等、社会における概念を捉えている考え方や価値観等の変化を把握

自己変容の
基礎力を把握

自己認知

「自分にはよいところがあると思う」「自分とは異なる価値観や意見を尊重することができる」等、自己変容に至る基礎力として自己をどう捉えているかを把握

他者や場
に対する評価

他者との関係の質や心理的安全性の高い場が自己変容に至る重要な要素であると仮説を設定し、生徒が他者や場に対してどのように評価しているかを把握

検証結果サマリ

サマリ

- 参加した生徒それぞれに「思考の変化」「行動の変化」が生じた
- その変化に至った要因としては「参加前の経験や参加動機」「心理的安全性の高い場」「自己理解と他者との対話」が関係していると推察
- 自己理解が社会・他者に対する深い理解へ、また、他者理解が自己の深い理解へ影響するというフィードバックのループが生まれたことを確認

生徒に生じた変化

思考の変化	自己を捉える思考の変化	自分がこれから大事にしたい価値観や考えに気付くことができた等の変化
	観光を捉える思考の変化	参加前に抱いていた観光という言葉から想起される内容が変わった等の変化
行動の変化	日常生活での変化	学校で友人と積極的に話すようになった等の変化
	探究活動での変化	参加前から実施していた探究活動を実施する観点や視点が増えた等の変化

変化に至った主たる要因（仮説）

自己理解と他者との対話	少人数での対話機会を多く設け、他の生徒の多様な考えや意見に触れたことで、自身の思考や行動の変化に繋がるきっかけを得たと推察
心理的安全性の高い場	本音を気兼ねなく発言できる雰囲気やありのままの自分が尊重される雰囲気を醸成できたことで、他者との対話が促進され、変化に繋がったと推察
参加前の経験や参加動機	参加前に観光をテーマにした探究学習を実施した経験の有無や、参加動機の明確さが変化を生む土台として関係していたと推察

生徒へのアンケート調査結果（一部抜粋）

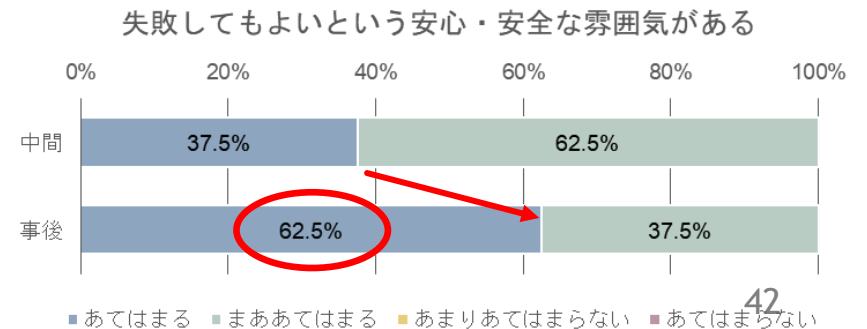
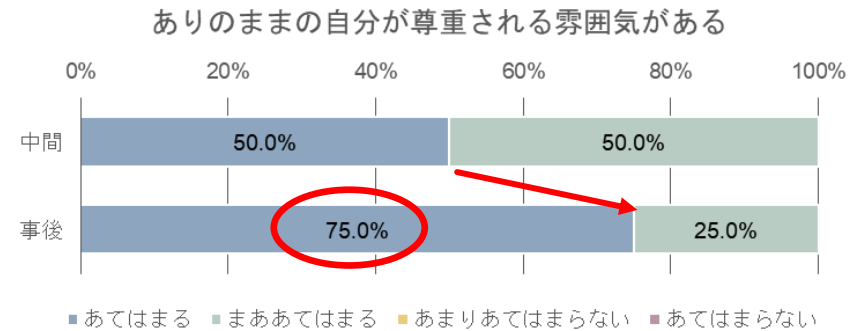
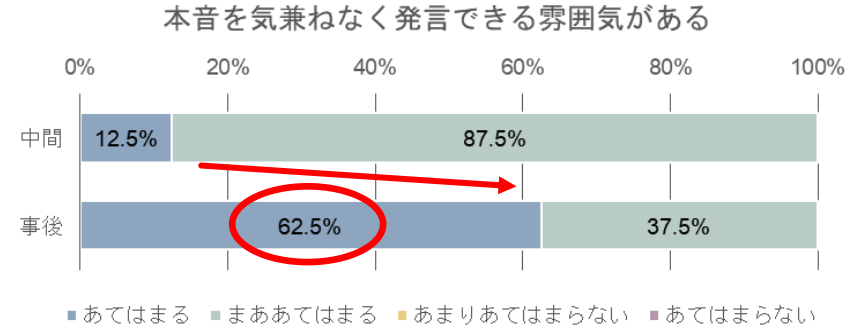
心理的安全性の高い場（中間→事後）

- 「本音を気兼ねなく発言できる雰囲気がある」**12.5%→62.5%**
- 「ありのままの自分が尊重される雰囲気がある」**50.0%→75.0%**
- 「失敗してもよいという安心・安全な雰囲気がある」**37.5%→62.5%**

※「あてはまる」の率の変化

- 中間アンケート調査及び事後アンケート調査の結果から、**心理的安全性の高い場づくり**ができていたことが裏付けられた
- 特に、「**本音を気兼ねなく発言できる雰囲気がある**」の割合が**大幅に増加**しており、講師の渋谷聡子氏と市川力氏がどんなことを発言しても受け止める姿勢を示していたことが影響したと推察できる

※「あてはまる」と回答した生徒の割合（参加者数8人のため、参考数値）



生徒へのアンケート調査結果（一部抜粋）

他者との対話（事前→中間→事後）

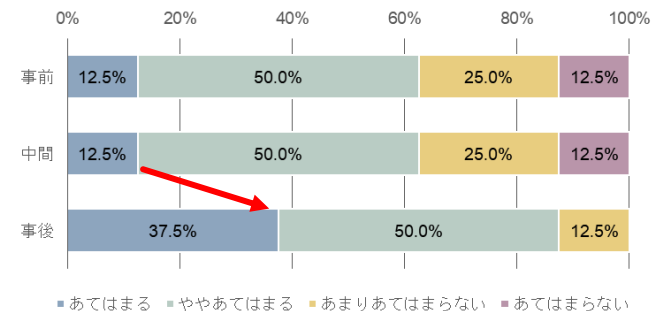
- 「自分を客観的に理解することができると思う」 **12.5%→62.5%**
- 「自分とは異なる価値観や意見を尊重することができる」 **37.5%→87.5%**
- 「誰かの助けがあれば、自分を変えられる」 **0.0%→37.5%**

※「あてはまる」の数値

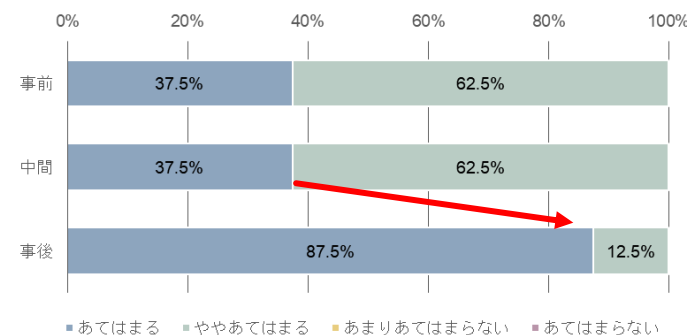
- 事前/中間/事後アンケート調査の結果から、**他者との対話による変化、他者との関係性に関する変化**が生じたことが分かる
- 特に、「自分とは異なる価値観や意見を尊重することができる」という質問に対し、「あてはまる」と回答した割合が大幅に増加しており、**他者の対話の中で違いを尊重するようになった**と言える

※「あてはまる」と回答した生徒の割合（参加者数8人のため、参考数値）

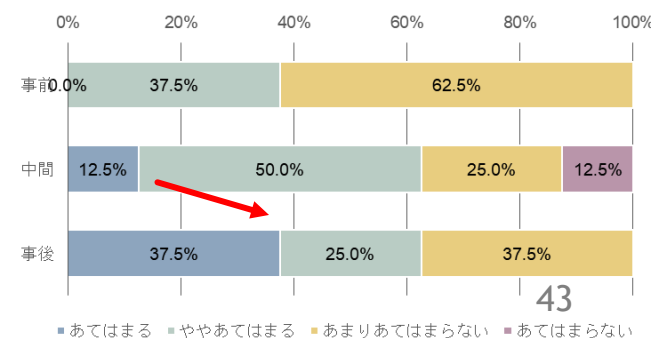
自分を客観的に理解することができると思う



自分とは異なる価値観や意見を尊重することができる



誰かの助けがあれば、自分を変えられる



1 参加動機	<ul style="list-style-type: none">■ 観光・ツーリズムというテーマへの関心や自己の成長に対する関心等を持って参加■ そのような参加動機を事前アンケート調査や事前面談を通して言語化
2 自己開示への安心	<ul style="list-style-type: none">■ 安心安全な場が形成され、自分の願いやニーズを打ち明けることに対する安心感を得る■ 普段とは異なる関係性（生徒間、生徒と講師間）であったことも影響
3 違いへの気付き・ 自己理解の促進	<ul style="list-style-type: none">■ 思ったことや考えたことを率直に話した後、講師や他の生徒から違いに対するフィードバックを受けて他者との違いに気付くことで、自己に対する理解が進む
4 違いに対する受容 (違いの面白さ受容)	<ul style="list-style-type: none">■ 違いを肯定的に捉え、「他人と違っていい」「多様な意見があることが面白い」ことを受け入れ、むしろ違い（他者との視点の違いや地域の違い）に面白さを感じる
5 違いへの 関心の高まり	<ul style="list-style-type: none">■ 「もっと違いを知りたい」「もっと他の人の考えを聞きたい」という関心が高まり、他者の意見を聴くことにも意識が向く
6 自己変容の 実現・実感	<ul style="list-style-type: none">■ 他者と多様な意見を交換することで、自身の考え方や行動に変化が生じる■ プロセスの中で幾度も自身の考えたことや感じたことを言語化したことも影響■ 「もっと知りたい」「もっと学びたい」という今後の探究に対する意識が向上



自校に限定しない
開かれた多様な学びの実現



学校の垣根を越えた
生徒中心の
個別最適な学びの
実現へ

今回の実証で、自校内に限定せず、ほかの学校や地域など「多様な人・考え方」との対話の中で「異なる価値観」を受け入れながら自己変容することが実現できた。

また、全日制・通信制の枠を越えた、生徒の目的をあった学習を全日制で単位認定し多様な学びを認めるケースが実現できた。

「地域」「学校」の枠を超えて、生徒の目的にあった学び方を選択できる環境整備が必要と考える。

自校だけでなく、他校も含めた「教育課程の実現」や「生徒中心のカリキュラムマネジメント」を、ICTの活用や学校間連携の手順の明確化などを進めることで更なる推進を行いたい。